

大阪府立大学 工学部 経営工学科

大阪府立大学工学部は、旧制官立大阪工業専門学校と旧制府立化学工業専門学校を母体とする浪速大学工学部として昭和24年に発足した。その後、昭和30年に大阪府立大学と名称変更された。当時、当学科は、工業経営学科と呼称されていたが、昭和38年に現在の名に改められた。昭和46年に大学院修士課程、昭和48年には博士課程が設置されている。現在経営工学科は、4講座からなり各講座の構成員、授業担当科目、研究内容、研究テーマは以下のとおりである。

第1講座(生産管理) 西山徳幸教授、長沢啓行講師、藤本義治講師、平林直樹助手
授業担当科目：学部では、経営工学総論Ⅰ、工業経営Ⅱ、生産管理、実験計画法、工程管理、人間工学Ⅱ、経済性工学を担当、大学院では、生産管理特論、工業経営特論を担当している。

〔研究内容〕 生産システムの最適な設計・運用および産業立地を生産管理の全側面から総合的に行なうための基礎研究と応用を取り扱い、そのさいに社会環境や経済活動を考慮したアプローチも行なっている。

〔研究テーマ〕 1)自動生産システムの最適な設計・運用法の開発。2)多目的多階層の全般的生産計画法の開発。3)集積利益と業種間の立地近接性の分析。4)多目的生産スケジューリング法の開発。

第2講座(生産工学) 橋本文雄教授、久米靖文助教授、藤川亮吉講師、長坂一徳助手、乾口雅弘助手

授業担当科目：学部では、経営工学総論Ⅱ、製造工学、生産工学：工場計画、メソッド工学、生産工学設計および製図を担当、大学院では、生産工学特論、工場管理特論を担当している。

〔研究内容〕 製品を生産する場合の加工方法およびその経済性、作業の最適化および生産設備の最適配置、生産設備の信頼性・安全性および作業環境の保全に関する研究を行なっている。

〔研究テーマ〕 1)人工知能のコンピュータ統括生産システムへの応用。2)生産システムの保全管理。3)産業用ロボットを用いた生産システムの設計。4)ダイヤモンド砥石によるセラミックス加工。

第3講座(システム工学) 田中英夫教授、市橋秀友講師、浅井勇夫助手、石沢久生助手

授業担当科目：学部では経営工学総論Ⅲ、システム工学Ⅰ、Ⅱ、制御工学Ⅰ、Ⅱ、人間工学Ⅱ、大学院では、システム工学特論、情報システム特論を担当している。

〔研究内容〕 人間が関与する情報・システムの理論としてファジィ論理、ファジィ測度などの基礎的研究を行なうとともに、意思決定問題、多変量解析、データベース・システム、エキスパートシステムなどの研究を行なっている。

〔研究テーマ〕 1)ファジィ数値計画問題とその応用。2)ファジィ多変量解析とその応用。3)近似的推論を用いたルールベース・システム。4)データベース・システムの開発。

第4講座(計数管理) 太田宏教授、宮崎茂次講師、有随有生助手

授業担当科目：学部では、経営工学総論Ⅳ、オペレーションズ・リサーチⅠ、Ⅱ、品質管理、フォートランプログラミング、管理工学を担当、大学院では、オペレーションズ・リサーチ特論、品質管理特論を担当している。

〔研究内容〕 経営一般における諸問題に対して、数理的方法による解決を指向する。とくに、オペレーションズ・リサーチ、品質管理、応用統計学などの分野において、新しい管理技術の開発およびその基礎的研究を行なっている。

〔研究テーマ〕 1)全社的品質管理の数理的側面と今後の動向。2)情報量統計学にもとづく管理技術の開発。3)組合せ理論の経営管理への応用。4)トヨタ生産システムの数理的解析にもとづく最適運用法。

上記の担当授業科目にみられるように、カリキュラムも、経営工学としての内容充実が図られてきており、経営・管理のための優れた技術者を多く輩出してきている。また、高度情報化社会に対応した経営・生産システムの最適設計を、情報の利用技術の側面からアプローチする体制を作るために、経営情報関係の増講座を要求している。

(市橋 秀友)